

高根沢町における子育て世帯の居場所づくり

地域名：高根沢町

パートナー名：高根沢町企画課

18班 コミュニティデザイン学科
建築都市デザイン学科

社会基盤デザイン学科
グループ指導教員



大貫さくら 小筆響
麦谷英美 藤永隼
渋谷信孝 小嶋由莉
吉澤拓武 平坂海晴
大森宣暁先生

背景

宇都宮市の北東側に位置する、人口約29,000人の町
工業団地のベッドタウンであり、ホンダ関連企業へ就労する住民が
多く、20~30代の人口割合と婚姻率が1位である
町には「児童館きのこのもり」をはじめとした子育て支援施設の
ほか、子育てを地域内で助け合うための「ファミリーサポート
センター」などの子育て支援サービスも充実している町である

課題

「子育て世帯の定住・転出抑制」

就職をきっかけに転入してくる20代は多い(婚姻率県内1位)
しかし、ライフイベント(小学校入学など)を機に町外へ転出してしまふ

目的

子育て支援が充実しているように見えるがPRが足りないのでは、
支援事業や町の魅力をPRして町の魅力を再確認してほしい！
ターゲット：未就学児を持つ世帯

ヒアリング調査(利用者)

第一回(5/13)

【目的】高根沢町の現状や
子育て関連施設
について知る

【訪問先】きのこのもり
れんげそう
クリエイターズデパートメント



活動全体の方向性を定める指針となった

第二回(10/14)

【目的】広報誌を
読むかどうか
どんな内容が
好いか等の調査

【訪問先】きのこのもり
れんげそう



取り組むべき内容の精査や
読んでもらう工夫づくりに活かした

ヒアリング調査(役場職員)

○高根沢町役場

こどもみらい課(2名)の方にインタビュー

- ・放課後の子どもの居場所づくり
- ・現在町が力を入れている
子育て支援の取り組み
- ・子育て支援事業計画書をもとに、
支援事業の内容や利用状況について確認

- ・高根沢町独自の
給食費・副食費の免除制度
- ・子育て支援の充実
力を入れている



調査を受けて

- ・施設が充実しているという印象を受けた
- ・町の制度として副食費・給食費の免除など
子育て支援が充実している

- ・自分たちが実際に高根沢町を見て
子育てしにくいという印象は受けなかった
支援策・サービスが知られていないのでは…?

子育て世帯にとって魅力があるものをPR
→ 転出の減少につながる！

町報で高根沢町の魅力を発信して
子育て世帯の転出を防ごう！

最終活動

①広報誌の作成

目的

高根沢町の子育てに関する施設やサービスの紹介



②広報誌を通じたアンケート調査(12月1日-12月10日)

目的

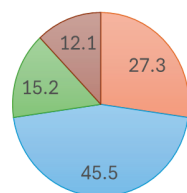
子育て施設・サービスの認知度、子育て施策への満足度調査
⇒高根沢町の今後の子育て支援策へのアプローチ方法、情報アクセス
方法をさぐる

結果

33件の回答

- ・記事をきっかけに、高根沢の子育てへの関心が高まった人が7割以上
- ・子育てされている方から
「頼れる小児科や産婦人科が少ない」
「子育て施設は充実しているが、行くまでの交通の便が悪い」と不満の声
- ・子育てされていない方から
「子育て世帯と関わりたいが方法が分からない」と情報不足についての声
- ・宇大生が調査することについて、
「大学生がまちづくりに関わってくれることが嬉しい」と応援の声

記事をきっかけに子育てへの
関心が高まったか



■ そう思う
■ どちらかといえばそう思う
■ どちらかといえばそう思わない
■ そう思わない

最終提案 「子育て情報発信の継続と強化」

◎アンケートでは、町報の記事をきっかけに子育てへの
関心が高まったとの回答が7割以上
⇒町報での子育て情報の発信は継続

◎町報の発行部数に対してアンケートの回答数が少ない
→町報に頼った広報活動には限界がある
⇒子育て施設の利用者を対象とした情報発信の強化

①今ある手段の活用

町報の記事が子育てに関心を持つき
かけになっている(アンケートより)

町報を利用した子育て情報の発信を
継続して行うことで、子育てに関心
を持つ人を増やすことができるのでは
ないか

②施設での情報発信強化

アンケートの回答数が少ない

→町報の該当ページを読んだ人が少なかった
⇒町報を用いての広報活動には限界がある

「きのこのもり」など施設利用者に対する
子育て支援情報の発信の強化
・今ある手段に加えて、子育て世帯に
適した手段での広報活動の必要性